

別添「第2条関係 ”文化”の定義」（推薦要項第2関係）

用 語		意 義	備 考
学 術	自 然 科 学	科学的方法により一般的な法則を導き出すことで自然の成り立ちやあり方を理解し、説明・記述しようとする学問の総称。物理学、化学、生物学、地球科学、天文学、数学等がある。	
	人 文 科 学	哲学、芸術学、美学、心理学、教育学、文学、言語学、宗教学、神学、仏教学(このほか、社会科学との区分が曖昧な学問分野。歴史学(経済史、法制史、政治史等は社会科学に含まれる)、地理学(自然地理学は自然科学に、また経済地理学は社会科学に含めることもある)、考古学、民俗学(家族関係や経済関係は社会学的研究手法が採られている)、文化人類学。	
芸 術	文 芸	言語を媒介とした芸術の総称。文学と同義であることが多いが、範囲が広く、無文字文化でのものも含まれる。口承文芸、伝承文芸、歌謡文芸など。文学と芸術をまとめて言った語。(文学・・・言語表現による芸術作品の事をいう。それらを研究する学問も文学と称される)。詩(叙事詩、叙情詩)、小説、評論、翻訳。	
	美 術	視覚によってとらえることを目的として表現された造形芸術(視覚芸術)の総称。代表的な美術の分野(ジャンル)は絵画と彫刻である。これに版画、陶芸、染織、写真なども含む場合がある。隣接するものには、イラストレーション、デザインや工芸などの応用美術や、漫画やアニメ、映画などの大衆芸術がある。	
	音 楽	音のもつ様々な性質を利用して、それを時間の流れの中で組み合わせて、感情や思想を音で表現したものである。音楽は時間の中に組み立てられた芸術であり、絵画や彫刻を芸術空間とよぶのにたいして、時間芸術ともよび、美学では人為的な音楽は音による時間の表現であると定義する。	
	舞 踏	感情や意思の伝達、表現、交流などを目的とした、一定の時間と空間内に展開されるリズムカルな身体動作。動物全般の非言語コミュニケーションの他にも、なんらかの規則性を持って行われているように見える無生物の動きを、ダンスと呼ぶこともある。ダンス用音楽のジャンルを指して、ダンスミュージックもしくはダンスと呼ぶこともある。日本では、坪内逍遙の「新楽劇論」(1904年(明治37年))でdanceの訳語として舞踊(ぶよう)が初めて使われた。舞踊とは、坪内逍遙と福地桜痴による造語で、日本の伝統的なダンスである舞(まい)と踊り(おどり)をくっつけたものである。現在では、同じ訳語として、舞(狭義のダンス)と、踏(ステップ)を組み合わせた舞踏(ぶとう)も使われる。	
	演 劇	主として生身の俳優による演技を通し、何らかのストーリーやテーマなどを、同じ場にいる観客に対しリアルタイムに提示する表現活動を言う。	
	書 道	書くことで文字の美を表そうとする東洋の造形芸術である。カリグラフィーの一種。中国が起源であるが、日本においては漢字から派生した仮名、ベトナムではチュノムなどが発明されると共にそれぞれ独自の書風が作られている。	
	写 真	—	
	工 芸	人間の日常生活において使用される道具類のうち、その材料・技巧・意匠によって美的効果を備えた物品、およびその製作の総称。もともと生活用具としての実用性を備えたもので、その点、彫刻や絵画と異なり、建築とともに応用芸術の一つとみなされる。工芸は材料によって多くの種類に分けられ、陶磁、金工、漆工(しっこう)、木工、竹工、ガラス、染織などの諸部門に分類される。	
	建 築	人間が活動するための空間を内部に持った構造物を、計画、設計、施工そして使用するに至るまでの行為の過程全体、あるいは一部のこと。また、そのような行為によって作られた構造物そのものを指すこともある。ただし、本来後者は建築物と呼ぶのが適切である。	
教 育	学 校 教 育	公教育(こうきょういく)と密接な関係がある。公教育とは、国家や地方自治体など公的機関が行う教育のことで、学校を通じて行われるためである。	スポーツを除く
	社 会 教 育	社会教育は、社会において行われる教育を広く指すことが多い。「社会教育」に換えて「生涯学習」という用語を狭義の同義語として使う場合も多いものの、生涯学習は、法的にも学問的にも学校教育を含む概念であるため、扱いが難しい用語となりつつある。	スポーツを除く